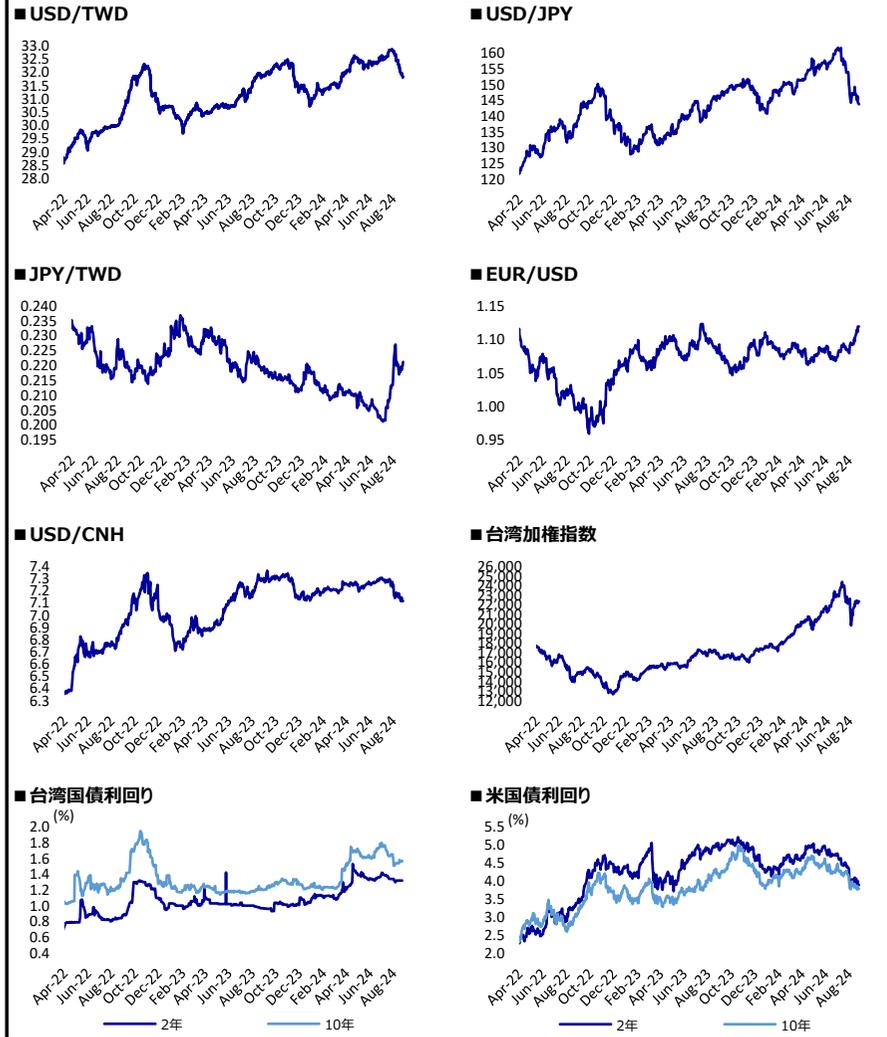


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初8/19は32.230でオープン後、前週末海外時間に米地区連銀総裁よりハト派なスタンスが示されていたことを受けてドル売りが優勢な展開となり、32.00近辺まで下落。8/20は台湾株が底堅く推移する中、外国人投資家による台湾株買いが見られた他、輸出業者による外貨売りも見られ、一時31.842まで下落。その後海外債券投資資金送金が見られ始め、ドルが買い戻され31.90台後半まで上昇。8/21は、前日海外時間に発表されたカナダ7月CPIが前月比減速していたことを受けて、海外金利が低下する中、ドル売りが優勢な展開となり31.90台前半まで下落。8/22は、週末にパウエル議長講演が控えることから様子見姿勢が強かったが、午後に入り外資による海外送金や輸入業者による外貨買いが見られ、ドル買いが進み31.90台後半まで上昇した。8/23は、海外時間のパウエル議長講演に注目が集まる中、様子見姿勢が強まり動意に欠ける展開となった。32.90台後半で揉み合いの推移が続き、最終的には前週比1.0%ドル安台湾ドル高の31.976で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は123.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初8/19は147.59でオープン後、前週末海外時間にシカゴ連銀総裁のグールズビー氏より「必要以上に金融引き締めを続けるのは望ましくない」との発言があったことを受けてドル売りが進み、146円台半ばまで下落。8/20は、海外時間に発表されたカナダ7月CPIが軟調な結果となったことを背景に海外金利が低下する中、ドル売りが進み145円台前半まで下落した。8/21は、ポジション調整によるドル買いから146円台後半まで上昇後、海外時間に発表されたFOMC議事録がハト派な内容となっていたことを受けてドルが売り戻され、145円台前半まで下落。8/22は、週末にパウエル議長講演を控え米金利が上昇する中、ドル買いが優勢となり146円台半ばまで上昇。8/23は、日銀の植田総裁による国会答弁において、金融緩和の度合いを調整していくとの姿勢が示されたことを受けて円金利が上昇。円買いが優勢な展開となり145円台後半で上値重く推移。その後、パウエル議長の講演では「政策を調整するときに来た」との発言が聞かれ、米金利が急落。ドル売りが加速し、一時144.05まで下落した。最終的には前週比2.2%ドル安円高の144.41で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.550-31.850
今週は下落を見込む。米国における利下げ期待が高まる中、ドル売り圧力が高まりやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：141.50-144.50
今週は下落を見込む。米国では利下げの確度が高まる一方、日本においては緩和スタンスの撤廃が進む中、金融政策の方向感の逆転を受けて、円が買われやすいであろう。

今週の予定

8/26 (MON)	米7月耐久財受注
8/27 (TUE)	日7月サービスPPI
8/28 (WED)	
8/29 (THU)	米第2四半期GDP、米第2四半期PCE
8/30 (FRI)	日8月東京都区部CPI、日7月失業率、米7月PCE、米8月ミシガン大消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。